

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	orange青山			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 14日 ～ 2025年 12月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54名	(回答者数)	37名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日 ～ 2025年 12月 22日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 18日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い支援体制と計画的支援の実施	利用児童一人ひとりの特性や発達状況を踏まえた個別支援計画を適切に作成し、全職員で共有した上で一貫性のある支援を実施している。保護者に対しても内容説明や相談対応を丁寧に行い、支援内容の透明性を確保している。	これまでに培ってきた専門性を基盤としつつ、最新の療育知見や技法を継続的に取り入れるための研修体制を整備し、支援内容のさらなる質的向上を図っていく。
2	安心して利用できる環境整備および安全管理体制	清潔で落ち着いて活動できる環境整備や、危機管理マニュアルの整備・訓練実施、事故時の迅速な連絡体制など、安全管理体制が機能しており、安心して通所できる事業所として高い評価を得ている。	安全対策や危機管理体制について、保護者に対しさらに分かりやすい周知方法を検討し、安心感の向上と理解促進を図る。
3	保護者との連携体制および相談支援の充実	日常的な情報共有や定期面談等を通じて、家庭との共通理解を形成し、相談しやすい体制を整えている。職員の共感的な姿勢も含め、保護者との信頼関係が構築されている。	個別相談に加え、保護者間の交流や家庭全体を支える取組についても検討し、必要に応じて機会を拡充することで、連携体制のさらなる充実を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流および他児童との活動機会のさらなる充実	個別支援の充実を重視してきた一方で、コロナ以降、地域交流活動等の機会や取組内容が保護者に十分に認知されていない可能性があり、一部に参加機会のばらつきが見られた。	地域や関係機関との交流機会を計画的に増やし、取組内容や意義について保護者への周知を強化することで、参加促進と支援機会の拡充を図る。
2	家族支援プログラムおよび保護者学習機会の周知・参加促進	一定の取組は実施しているものの、「わからない」と回答する保護者が一定数見られ、内容や目的が十分に伝わっていない可能性がある。家庭事情により参加が難しいケースも想定される。	開催方法や時間帯の工夫、オンライン等の活用を検討するとともに、案内や報告の伝え方を改善し、より参加しやすい環境整備と情報発信の充実を図る。
3	保護者交流およびきょうだい支援の見える化	支援自体は実施しているものの、保護者交流機会やきょうだい支援の実施状況が全体に十分伝わっていない部分があり、取組の見える化が課題となっている。	保護者交流やきょうだい支援の在り方について検討を進めるとともに、実施有無のみならず方針や意義についても丁寧に周知し、理解促進と支援充実を図る。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 orange青山

公表日 2026年1月18日

2026年1月15日現在

利用児童数 54名中

回収数 回収37名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	37 (100%)					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	36 (97%)			1 (3%)		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	37 (100%)					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	35 (96%)	1 (3%)		1 (3%)		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36 (97%)	1 (3%)				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	37 (100%)					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	37 (100%)					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	37 (100%)					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	37 (100%)					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	37 (100%)					
保 護 者 へ の 説 明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	29 (78%)	5 (13%)	1 (3%)	2 (6%)		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	37 (100%)					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	37 (100%)					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	28 (76%)	2 (6%)	1 (3%)	6 (15%)		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	37 (100%)					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36 (97%)	1 (3%)				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	37 (100%)					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27 (73%)	2 (6%)	2 (6%)	6 (15%)		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	37 (100%)				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	37 (100%)				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	36 (97%)		1 (3%)		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	37 (100%)				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	35 (94%)	1 (3%)	1 (3%)		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	36 (97%)		1 (3%)		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	37 (100%)				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	37 (100%)				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	36 (97%)		1 (3%)		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	35 (94%)	1 (3%)	1 (3%)		
	29	事業所の支援に満足していますか。	37 (100%)			日頃から丁寧な指導や親に寄り添っていただき感謝しています	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
orange青山		2025 年 1 月 18日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法定基準を大きく上回る十分な活動スペースを確保し、安全かつ落ち着いて過ごせる環境を整備しています。保護者および職員からも高い評価を得ています。	引き続き環境整備を進め、安心・安全な利用環境の維持および質の向上に努めていきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		通常配置を大きく上回る人員体制を確保し、児童の特性に応じた柔軟な支援が可能な体制を構築しています。	今後も必要に応じて体制の見直しを行い、適切な人員配置の維持と支援の質の確保に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		静養室・調理室・学習室等、目的に応じた専用スペースを整備し、安全かつ適切に使用できる環境を整えています。	視覚的配慮、バリアフリー化及び安全動線のさらなる整備を進め、利用しやすい環境づくりを推進します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日常的な接触箇所の消毒等、衛生管理体制を徹底し、安心して利用できる環境の維持に努めています。	衛生面については点検体制及び清掃頻度の見直しを行い、より高い水準での衛生管理を継続します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養環境や多目的室を活用し、個別支援及び集団活動双方に対応可能な支援体制を整えています。	個々のニーズに応じた対応として、個別の部屋の使用を一層充実させ、安心して参加できる支援環境の維持に努めます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的な会議により支援計画の振り返りと見直しを行い、日常支援へ反映しています。	PDCA等の手法を活用し、引き続き支援の質的向上に努めます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		匿名性に配慮したアンケート回収を行い、いただいた意見を適切に把握し改善へ反映しています。	引き続き意見収集方法の工夫を行い、実態把握の精度向上に努めます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		面談や情報共有ツールを活用し、職員の意見を積極的に運営へ反映しています。	職員が意見を出しやすい環境づくりを継続し、組織的な改善につなげていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		他事業所との連携や情報共有を行い、法令順守および運営体制の適正化に努めています。	外部評価等も活用し、客観的視点による見直しと改善に取り組みます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修および法人内研修を計画的に実施し、職員の資質向上を図っています。	好事例共有やテーマ別研修など、研修体制のさらなる充実を図ります。
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを整備し、内容確認後ホームページにて公表しています。	単なる公表にとどめず、常時確認・振り返りが可能な体制を維持します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントの実施、職員間での共有及び保護者同意を経たうえて、計画作成を行っています。作成した計画については全職員で共有し、共通理解のもと支援を実施しています。	現行の適切な手続きを継続し、丁寧な計画作成を維持していきます。引き続き共有体制の徹底を図り、適切な運用を継続します。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		定期会議や個別支援検討の場を設け、児童発達支援管理責任者だけでなく現場職員も参画する形で計画内容を協議し、共通理解のもと支援方針を整理しています。	より客観的な視点や専門的知見も取り入れられるよう、外部研修や情報共有の機会を継続しつつ、計画検討体制の質的向上を図ります。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員への共有と計画通りの支援を進めています	計画通りの支援が提供できるようつとめていきます
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化検査や観察記録等、多角的手法により児童の状況把握に努めています。	児童の特性に応じた適切な評価手法の検討を継続します。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		計画作成時にはガイドラインの4つの支援領域をチェック項目として用い、アセスメント結果や保護者の意向を踏まえながら、本人・家族・移行・地域の各観点を計画内に位置づけるよう努めています。	現状の計画を振り返り、4つの支援領域のうち不足や偏りがないかを定期的に確認し、より具体的に評価しやすい目標設定や支援内容の記載方法について、職員研修等を通じて改善を図っていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当制による企画体制を整備し、計画的なプログラム運営を実施しています。	必要に応じて見直しを行い、適切な運営体制を維持します。

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	季節行事や社会体験活動などを取り入れ、多様な活動を計画・実施することで、児童生徒の経験の幅を広げるよう努めています。また、今年度より「Orange喫茶」として、将来の就労や社会参加を意識した中高生向けの取り組みを新たに実施しています。	今後も活動内容が固定化しないよう、定期的な検討と見直しを行っています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	学校・家庭との連携を踏まえ、個別支援と小集団支援を適切に組み合わせ実施しています。	引き続き関係機関連携の強化と適切な支援提供に努めます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	役割分担を明確化し、職員間連携の円滑化を図っています。	共有体制の維持及びさらなる連携強化に努めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援後の振り返りおよび必要事項の速やかな共有を徹底しています。	相談・共有しやすい体制を維持し、継続的改善を図ります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	各種記録を体系的に管理し、支援内容の把握および共有に活用しています。	非常勤職員も含めた記録周知の徹底を引き続き強化します。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	適宜モニタリングを行い、計画の妥当性確認および見直しを実施しています。	経験年数に応じた丁寧な説明と周知徹底を図ります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	「自立支援と日常生活の充実のための活動」「創作活動」「地域交流の機会の提供」「余暇の提供」を組み合わせた支援を実施しています。	評価結果を踏まえ、継続的な改善を行います。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	自己選択・自己決定を尊重した支援を基本姿勢として徹底しています。	研修等を通じ理解促進を図り、継続して取り組みます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	支援体制や状況を踏まえ、適切な職員が参加できるよう配慮しています。	引き続き状況に応じた参加体制の調整を行います。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	保育園・学校・関係機関と密接に連携し、情報共有を行っています。	今後も連携体制の維持および強化に努めます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校との連絡体制を整備し、年間計画や行事予定、当日の下校時刻等について適宜情報共有を行い、安全な送迎及び支援につなげています。	利便性と確実性の両立を図り、さらなる工夫を検討します。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	保護者の同意のもと、これまで利用していた関係機関からアセスメント情報や支援内容を共有し、児童理解および支援の継続性が図られるよう努めています。	課題を踏まえ、内容の充実を検討します。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	移行期の児童に対しては、関係機関と連携しながら、支援記録や取組状況等の必要な情報提供を行い、途切れのない支援につなげるよう配慮しています。	引き続き適切な情報提供を継続します。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	児童発達支援センター等との情報交換を行い、必要に応じて助言や支援の方向性について確認できる体制を整えています。	保護者意向を尊重しつつ、引き続き適切な支援提供に努めます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	児童の状況を踏まえながら、地域との交流の機会について個別に検討し、参加可能な範囲で活動機会の確保に努めています。	引き続き丁寧な説明と手続きの徹底に努めます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	自立支援関係機関との連携の一環として、関係会議等へ参加し、地域の支援体制や情報共有に努めていますが、参加できない月も多くありました。	現行の体制を維持し、相談環境の充実を図ります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	連絡帳や面談等を通じて定期的に児童の状況を共有し、保護者と共通理解が図れるよう努めています。	今後も将来を見据えた支援体制の継続に努めます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	必要に応じて保護者へ支援に関する情報提供や相談対応を行い、家庭での関わりにもつながる支援を心がけています。	研修参加等を含め、連携強化に向けた検討を進めます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時等に重要事項の説明を行い、内容について理解が得られるよう丁寧な説明を心掛けています。	引き続き交流機会の拡大を図ります。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	アセスメントや面談等を通じて、児童および保護者の意向を把握し、最善の利益を考慮した計画作成に努めています。	今後も継続参加し情報共有を図ります。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	計画作成時に内容を説明し、理解と同意を得たうえで支援を実施しています。	適切な説明および迅速対応を継続します。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	日常的な相談に応じる体制を整え、必要に応じて面談や個別支援の調整を行っています。	引き続き分かりやすい情報提供に努めます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○	事業所から情報提供を行い、保護者が必要な情報にアクセスできる環境づくりに努めています。	今後も適切な管理体制を維持します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情対応窓口等を設け、受け付け体制および対応手順を整備しています。	引き続き体制強化を図ります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	通信やホームページ等により事業内容や必要情報の発信を行っています。	引き続き情報の充実につとめます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報の管理について内部で共有し、適切な保管と取り扱いに努めています。	医師指示書等の取り扱いについても検討を進めます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	児童や保護者の状況に応じた説明や配慮を心がけ、意思疎通が図れるよう努めています。	今後も意思の疎通や情報伝達の配慮に努めます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	児童の安全や特性を踏まえつつ、地域との関わりについて個別に検討しています。	安全と特性を踏まえ、慎重に検討します。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	各種マニュアルを整備し、職員に周知するとともに、必要に応じて内容確認を行っています。	より分かりやすい表示方法の工夫を検討します。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	避難訓練等を計画的に実施し、非常時の対応体制の維持に努めています。	引き続き多様な災害対応訓練を実施します。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	利用開始時等に健康状況について確認し、必要事項を把握するよう努めています。	長時間行事時の再確認体制も引き続き徹底します。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	保護者からの申告内容をもとに対応し、必要情報について職員間で共有しています。	指示書の直接取得の必要性について検討を進めます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全確保に関する研修や訓練を実施し、事故防止に努めています。	今後も継続実施していきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	必要に応じて安全に関する情報共有を行い、保護者と連携を図っています。	周知徹底のさらなる向上を図ります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット事例について職員間で共有し、再発防止のための対応検討を行っています。	今後も継続します。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止に関する研修を定期的 to 実施し、職員の理解促進および意識向上に努めています。 研修では、実際に地域で起こった事例や過去の事例等も活用し、具体的な対応や予防の視点について共有しています。	今後も継続的に研修を実施し、虐待の未然防止に努めていきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	身体拘束に関する基本的考え方を説明し、必要に応じて計画に記載したうえで支援を行っています。	引き続き周知徹底を行います。